

# 入退院センター設置によりシームレスな医療を提供、在宅医療をバックアップ



毎日の健康から救命救急まで。

ひとりでも多くの方に安心をお届けする。

私たちは、地域とともに

みなさまの健康をサポートします。

まいにちから、  
まんいちまで。

札幌市の中心部からほど近い山の手地区にあり「人と自然の健康と調和を大切に医療を実践します」を基本理念とする。災害拠点病院の指定を受け、東日本大震災ではDMAT（急性期災害医療支援チーム）を派遣し、心のケアチームを含めた5チームが医療支援を行った。臨床研究部では難病や希少疾患の先進的研究と治験の推進を図っている



① 入退院支援センター専任スタッフ  
② 「入院が決定した患者様に対し、安心して入院していただけるよう支援いたします」と話す

2016年1月4日より、1階外来ホールの医事課前に「入退院支援センター」が新しく整備された。開設の目的は、入院に際しての患者の不安な気持ちを少しでも解消し、スムーズに入院できるようにすることだ。これまで患者は入院前に何力所かに分かれた受付窓口を回る必要があったが、開設後は看護師、事務職員などの専門職員が常駐し、各所を移動することなく入院に際しての手続きを行うことが可能となった（ワンストップサービス）。また同センターから各専門職員へ随時連絡を取り、患者がいつでも相談でき、安心して入院できる環境を提供するとともに、安全で質の高い医療サービスの提供を可能としている。対象診療科は消化器内科から開始し段階的に拡大して行く予定だ。

同センターの具体的な業務の一例として、入院前の持参薬確認がある。手術や出血をとまなう検査を受ける際、手術や検査中の出血を最小限にするため、事前に中止をしておかなければいけない薬が何種類かある。これまでは各診療科の担当医師がチェックを行っていたが、すべての内服薬を正確にチェックするのは難しい状況であった。センター開設後は、内服薬のチェックが確実かつ正確に行われ、中止の指示漏れによる手術・検査の中止・延期を最小限としている。また同センターを経由することで、事前に転倒・転落の危険性などの入院時のスクリーニングを確実にを行い安心して入院生活を送れるようにしている。同時に退院へ向けて自宅の療養環境の整備をケアマネジャーや訪問看護ステーションに相談しながら、より良い在宅医療の実現に努めるなど、全病院をあげて入退院支援センターの発展を目指し、西区の地域包括ケアの実の一翼を担う覇気に満ちている。



院長  
菊地 誠志氏

北海道大学医学部卒業。日本神経学会専門医・指導医・代議員。日本神経免疫学会理事。日本神経治療学会評議員。日本認知症学会専門医・指導医など。医学博士



統括診療部長  
臨床教育研修部長  
長尾 雅悦氏

札幌医科大学卒業。日本小児科学会専門医。臨床遺伝専門医。医学博士

内科・糖尿病/脂質代謝内科・腎臓内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・小児科・精神科・皮膚科・形成外科・眼科・耳鼻いんこう科・アレルギー科・リウマチ科・放射線科・外科・心臓血管外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・救急科

独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター

☎011-611-8111

札幌市西区山の手5条7丁目1-1

<http://www.hosp.go.jp/~hokkaido>

診療受付時間/  
月～金 8:30～11:00 13:00～15:00（一部の科のみ）\*初診については原則紹介制、再診については予約制となっております。各科・曜日により異なるため事前にご確認ください  
休診日/土曜・日曜・祝日  
最寄りアクセス/  
JR北海道バス北海道医療センター前停留所下車、地下鉄東西線琴似駅から徒歩約20分